

# こんなことがありました。



景観に配慮した外観、音響効果に優れた「さくらホール」を有するこくふ交流センター

高山と東京・大阪・名古屋を結ぶ高速バスに飛驒牛をラッピング。11月の飛驒牛まつりでお披露目



乗鞍を活用した地域振興と自然保護に意見を交わした「乗鞍フォーラム」



高山市制施行75周年記念式典では、121人・7団体を表彰。また、市民吹奏楽団と市内小中学生のジョイント演奏も披露

## 7~12月の主なできごと

### こくふ交流センター オープン(7月1日)

J R 飛驒国府駅前に、行政・生涯学習・文化交流など複合する新しい国府町の拠点としてオープン。

### 「いのちの森づくり」開始(7月~)

市民自らが森を知り、どんぐりなどを拾い、苗を育てて植樹。周囲の生きものとも共存しているその土地にあった本来の森をつくる取組みが開始。

### ぎふ清流国体リハーサル大会を開催(7月~8月)

平成24年開催の国体を前に、アーチェリー、ハンドボール、バスケットボールのリハーサル大会を開催。

### 飛驒牛支援の取組み(9月~)

東京電力福島第一原発事故後、飛驒牛の価格低迷や消費が落ち込む中、飛驒地域の3市1村とJAひだりが共同し飛驒牛の販売促進などを支援。市では独自で安全な地元産稲わらの確保も実施。

### 総合防災訓練を中止(9月4日)

台風12号の接近に伴い、市民の安全安心を最優先とし、警戒体制を強化するため中止。中止は昭和53年の開始以来初。

### 乗鞍のあり方を考えるフォーラムを開催(9月17日)

丹生川文化ホールで乗鞍フォーラムを開催。マイカー規制を考える地元高校生のディベートなども開催。

### 教育委員長、教育長を選任(10月1日)

10月1日に開催された臨時教育委員会で、教育委員長に弓削陽子氏を選任、教育長に中村健史氏を選任(再任)。

### 市制施行75周年記念式典を開催(11月1日)

市民文化会館で市制施行75周年記念式典を開催し、約800人が参加。また記念行事も各地で開催。

## Pickup ピックアップ

国内外で積極的な誘客活動を展開、新しい国際交流も

震災直後、旅行自粛ムードや原発事故の風評被害などから高山市を訪れる観光客が大幅に減少しました。市では官民一体となり、国内外への誘客活動を積極的に展開。また、海外メディアの招聘や、市長・副市長が自ら海外の旅行代理店や企業、行政機関などへセールスを展開しました。

その結果、震災直後で前年同期比で7割に落ち込んでいた観光客入込が、11月には9割まで回復。秋の高山祭では2日間で24万8千人もの観光客が訪れ、市町村合併以後、2番目の入込がありました。

また、昨年は国際交流事業が一層推進された年でもありました。デンバー市(米国)や麗江市(中国)といった既に提携している姉妹・友好都市との交流を深めたほか、新たに昆明市(中国)、ウルバンバ郡(ペルー)との友好都市提携に向けた一歩も踏み出しました。

「ぎふ清流国体」高山市開催期日は2月14日~17日、9月29日~10月9日